

# 「渋滞目前」

— 2 稿 —

2025/9/30

雨森 れに

〈人物表〉

佐久間 隼人

(32) 不動産営業マン

小森 誠二

(54) バスジャック犯

井上 太陽

(40) バス運転手

依田 みなみ

(32) 健診帰りの妊婦。隼人とは大学同期

戸高 悠

(17) 寝坊した高校生

小沢 浩一郎

(80) 病院帰りの老人

小沢 祥子

(79) 浩一郎の妻

## 1. 車・車内（昼）

高速道路で渋滞に巻き込まれた自家用車。  
ラジオから「住宅地で複数人切り付けた男が逃走中  
です」と流れる。

## 2. バス・外観（昼）

小型のコミュニティバス。※文京区の「Bーぐるバス」のイメージ バス停に停まっている。

小汚い男が乗り込む。小森誠二（54）である。

バスが発進する。

## 3. バス停（昼）

インターチェンジ前のバス停。

バスはそのままインターチェンジへ。

バスの通過に待っていた人間が驚く。

## 4. インターチェンジ（昼）

バスがETCを通り、高速へ入る。

電光掲示板には「■■■IC 事故20Km渋滞」と表示されている。

## 5. バス・車内（昼）

前乗り乗車のバス。

荒い息遣い。佐久間隼人（32）のものである。

隼人、運転席の隣に立つ小森を見る。

小森、刃渡りの長い刺身包丁を運転手・井上太陽（40）に突き付けている。刃には血がついている。

小森 「全員、ケータイ寄越せ」

隼人の前の席にいる臨月の妊婦・依田みなみ（32）が、立ち上がろうとする。しかし、腰が抜けていて

立ち上がれない。

隼人、立ち上がり、自身のスマホを小森に渡す。

振り返り、みなみを見る。

みなみ「え、佐久間くん？」

隼人 「もしかしてみなみちゃん？ なんでここに……」

みなみ、腹をさすり、

みなみ「健診行つて——」

隼人、みなみの腹を見て啞然とする。

小森 「喋んな！ 女、早く持つてこい。他の奴らもな」

隼人、バスの車内を見渡す。

優先席に小沢浩一郎（80）と小沢祥子（79）、

最後尾のシートには制服姿の戸高悠（17）がいる。

隼人はみなみに手を差し出す。

隼人 「スマホ、だして。俺が渡してくるよ」

みなみ、震える手でスマホを渡す。

浩一郎「うちのもお願いできませんか」

浩一郎は杖を片手に、泣き出しそうな祥子の手を握っている。

小森 「めんどくせえな。お前、全員分の集めてこい」

隼人、頷き、小沢夫妻の元へ。

## 6. バス・車内・運転席（昼）

井上の顔は苦痛で歪んでいる。

左腕が切りつけられており、右手のみで運転している。

何度となく緊急ボタンを見るが、手を離せない。

外の渋滞表示板に気づく。

「この先渋滞20Km 2時間以上」と出ている。

小森が表示板を見ていないことを確認する。

ハンドルをきつく握る。覚悟を決めたように。

## 7. バス・車内（昼）

浩一郎が祥子の手を軽く叩く。

祥子、鞆からガラケーを2台出し、隼人に渡す。

隼人、最後尾の戸高の元に行こうとする。

戸高、それに気づいて慌ててスマホを渡そうとする。

車体が揺れ、スマホを手放す。

落ちたスマホは段差に当たり、降車口の前へ。

軽快な音楽が鳴り始める。

小森、警戒して、

小森 「全員動くな！」

全員が静止する。

音楽は鳴り続けている。

小森 「いつ留守電になんだよ」

戸高 「あの、電話じゃない……です。アラームです」

祥子 「そんなんっ」

小森、祥子を睨む。

そして、隼人に命じる。

小森 「画面、見せろ」

隼人、緊張しながらスマホを拾う。

画面を見て天を仰ぎ、そのまま小森に見せる。

アラームの画面である。

小森 「消せ」

隼人が操作し、音楽が止まる。

みなみ、小沢夫妻は落胆している。

小森、隼人から携帯を受け取る。

全員に言い聞かせるように、

小森 「変なことしようとしたら、運転手から殺す」

井上の首に刃を押し込む。

小森 「高速でいきなりバスが止まったら——すごいことになる

よなあ」

小森、楽しそうに笑っている。

小森 「俺はなんでもいいよ。どうせ捕まるならめちゃくちゃ目

立ちたいっただけ」

みなみのほうを見て、

小森 「でも、残酷に殺すなら妊婦がいいかもな」

隼人が唾を飲み込む。

小森に「戻れ」と手で指示され、振り向く。

車内には絶望が漂っている。

みなみは腹を守るようにしてうつむいており、小沢

夫妻は震えている。戸高の顔も蒼白である。

隼人、緊張した面持ちで、拳を握る。

8. 高速道路（昼）

バスから10Km先、渋滞の列。

9. バス・車内・運転席（昼）

井上の足がブレーキを踏む。  
速度が落ちていく。

10. バス・車内（昼）

隼人、窓の外を見る。

流れる景色が、遅くなっていくことに気づく。

小森、腰を叩く。捻って軽くストレッチをする。

包丁が井上から少し離れる。

井上、それを見て思いっきりブレーキを踏む。

ハンドルから手を離し、緊急ボタンを殴る。

バス後方に車がぶつかる衝撃。

みなみ、顔を歪め、腹を掴む。

小森、フロントガラスにぶつかって包丁を落とす。

隼人、慌てて立ち上がり、包丁を後ろに蹴とばす。

隼人 「拾って！」

戸高が包丁を拾う。

隼人、小森を押さえつける。

運転席の井上、災害ヘルメットで小森を殴る。

それを見た浩一郎、杖で殴り掛かる。

祥子も後に続き、鞆で殴る。

戸高、包丁を振り上げて近づこうとする。が、思い

直して、包丁を捨てる。

重そうな学生鞆を持って駆けつける。

学生鞆が振り上げられ、小森の頭にヒットする。

小森、失神する。

学生鞆からは辞書と教科書が覗いている。

戸高、小沢夫妻、隼人は肩で息をしている。

お互いに顔を見合わせて、笑い始める。

みなみ「痛い……お腹が……」

みなみが産気づく。

## 11. 高速道路（昼）

渋滞列の目前。

バスのボンネットに一般車がぶつかっている。  
周辺のドライバーが車から降りて集まっている。  
数人の**女性**が慌てたようにバスに入っていく。  
遠くからパトカーと**救急車**が近づいてくる。

おわり